2026年度秋季
現代文芸コース
大学院進学説明資料



「現代文芸コース」とは?



- 現代文芸コースは、博士後期課程をもたない修士課程のみからなる点を特色とする。

- 現代の文芸の諸相を幅広い視野から学際的に横断的に学べるようなカリキュラムが用意され、文学を含む文化現象への多様なアプローチ方法にふれることができる。
  例) 世界文学やジェンダー研究の視点から人間の文化的営みを総合的に考察することによって、現代の文化・文学の多層性をよりよく理解するための学問的方法や批評的思考を獲得することができる。

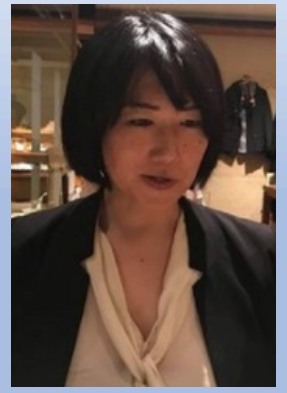
- 本コースの授業の対象は、小説、詩、批評、翻訳論、メディア論など多岐に及ぶ。各学生が、様々な学問的枠組みや方法を尊重しつつ、同時に自由に柔軟に、みずからの問題意識を深化 発展させ、新たな時代に対応できる豊かでしなやかな知性と想像力を養うことを目指す。

現代文芸コース教員紹介（1/2）



マヌエル・アスアヘアラモ先生

専門分野：比較文学と翻訳論、
世界文学論、
世界におけるラテンアメリカ文学、
日本文学の流通



岩川ありさ先生

専門分野：現代日本文学、
フェミニズム、
クィア批評、
トラウマ研究



荒井裕樹先生

専門分野：マイノリティの文学・文化、
マイノリティの社会運動史、
人物評伝・ノンフィクションの執筆



小野正嗣先生

専門分野：現代フランス語圏文学、
世界文学論、
文芸創作



市川真人先生 (※2027年度は特別研究期間)

専門分野：主として日本の20世紀以降の文学と、その環境としての紙メディアから電子媒体まで



菊池有希先生

専門分野：日本の近現代詩を中心とする比較文学

各先生の授業の概容や到達目標などは☞ https://www.waseda.jp/flas/faculty/

現代文芸コース教員紹介（2/2）



草野慶子先生
専門分野：20世紀ロシア文学、
比較文学



堀江敏幸先生
専門分野：創作（小説・批評・エッセイ）



小松史生子先生
専門分野：ポピュラー文芸論



橋本一径先生
専門分野：イメージ文化史



松永美穂先生
専門分野：現代ドイツ文学・翻訳論

各先生の授業の概容や到達目標などは☞ https://www.waseda.jp/flas/faculty/

WASEDA University

シラバス詳細照会

シラバス詳細照会

マヌエル・アスアヘアラモ先生



専門分野：比較文学と翻訳論、
世界文学論、
世界におけるラテンアメリカ文学、
日本文学の流通

(参考：2025年度春学期　現代文芸演習)

副題	20・21世紀の世界文学研究とポストコロニアル文学論
授業概要	この講義では、世界文学論(World Literature Studies)におけるポストコロニアリズムが課題として残っている現象について考えて行く。『オリエンタリズム』(1978)の著者エドワード・サイドが『イスラム報道――ニュースはいかにつくられるか』(1994)などで示したように、テレビやラジオなどといった現代のメディアを通して＜世界＞が表象されている以上、その＜世界像＞が、自国の文化空間で優越的な立場から君臨する様々な言説によって影響せざるを得なくなっているという。こうして、アメリカから見た中東だけではなく、例えばヨーロッパから見たアフリカや中国から見たアメリカなど、他国の文化を同化し得ない＜他者＞のものとする傾向があり、中立性をなくす危険が常に伴っている。 一方では、21世紀が明けてから文学研究において一層盛んに議論されている世界文学論は、グローバル時代における自国文学と他国文学の関係について横断かつ学際的に考える試みとして生まれてきたのである。しかし、2010年にAamir Muftiが発表した論考“Orientalism and the Institution of World Literatures”の中ですでに議論しているように、現在、世界文学について考えるためには、ポストコロニアリズムが残してくれた課題を忘れてはいけないという。したがって、この講義では、世界文学論を成立させた比較文学者のデヴィッド・ダムロシュ、パスカル・カザノヴァ、フランコ・モレッティなどが提案した世界文学論の基礎知識を得た上で、エドワード・サイドをはじめ、ガヤトリ・C・スピヴァク、ホミ・K・バーバ、アーミル・マフティの論考も取り入れる。 この講義では上述の枠組みを用いながら、植民者と被植民者という不平等な関係の中で生まれる世界文学作品について考える。授業の初めに、上記の理論的な枠組みを説明してから、毎回世界各地で書かれたポスト・コロニアル文学の作品を受講生と読み解いていきたい。
到達目標	受講者に文学作品をポストコロニアル的に読むノウハウを養っていきたい。そして、世界各地からのポストコロニアル文学の魅力を感じると共に、今もなお世界で必要とされているトランスカルチャー的な理解とは何かを考える授業にしたい。

(参考：2025年度秋学期　現代文芸演習)

副題	「グローバル・イングリッシュ」、翻訳研究、そして世界文学について考える
授業概要	本講義で近年の翻訳研究におけるグロバール・イングリッシュGlobal Englishの問題を受講生たちと考えていきたい。具体的に、Lawrence Venutiの『翻訳のスキャンダル』The Scandal of Translation, 水村美苗の『日本語が亡びる時:英語の世紀の中で』、Aamir MuftiのForget English!: Orientalisms and World Literatures、Rebecca Walcowitzの『生まれつき翻訳：世界文学時代の現代小説』Born Translated: The Contemporary Novel in an Age of World Literature、そしてMichael EmmerichのThe Tale of Genji: Translation, Canonization, and World Literatureからの抜粋をゆっくりと精読し、批評的に考える。これらの著書にある文学理論を把握しながら、翻訳の諸問題を念頭に置きなら文学作品の解読も実践する。
到達目標	受講生たちに海外の文学作品を翻訳研究の視点から読み解くノウハウを養っていきたい。そして、世界各地からの文学を日本語や、その他の言語で読むにあたって、トランスカルチャー的な理解とは何かを考えるようになってほしい。

WASEDA University

シラバス詳細照会

シラバス詳細照会

荒井裕樹先生



専門分野：マイノリティの文学・文化、
マイノリティの社会運動史、
人物評伝・ノンフィクションの執筆

(2026年度春・秋学期　現代文芸演習)

副題	社会運動家のテキストを読む
授業概要（春）	日本の戦後史における、個性的な社会運動家が著したテキストを輪読していく。今学期は、2024年8月に逝去したウーマン・リブの運動家、田中美津の『いのちの女たちへ――とり乱しウーマン・リブ論』を扱う。70年代に興隆したリブの思想を伝える名著だが、読み解くにはかなりの根気がいる。毎回の授業でコメンテーターを決め、担当箇所の研究報告をしてもらう。受講者は各自『いのちの女たちへ』（パンドラ、2016年、3520円）を購入しておくこと。受講者の人数次第では、インターミッションとして各自の研究テーマを報告してもらうことがある。「教員が受講者に教える」というよりも、「受講者が（教員を含めた）授業参加者に教える」という性質の授業であることを承知しておいてほしい。
到達目標（春）	込み入った問題を論じた社会運動家のテキストを読み解けるようになる。それを自身の言葉で論理的に説明できるようになる。
授業概要（秋）	日本の戦後史における、個性的な社会運動家について論じた論文を輪読していく。今学期は、2024年8月に逝去したウーマン・リブの運動家、田中美津について書かれた論文を扱う。採り上げる論文は、開講時に教員から提示する。春学期からの連続での受講が望ましい。毎回の授業でコメンテーターを決め、担当箇所の研究報告をしてもらう。テキストは開講時に説明するが、基本的な参考文献として『現代思想』2024年12月号「田中美津とウーマンリブの時代」を入手しておいてほしい。受講者の人数次第では、インターミッションとして各自の研究テーマを報告してもらうことがある。「教員が受講者に教える」というよりも、「受講者が（教員を含めた）授業参加者に教える」という性質の授業であることを承知しておいてほしい。
到達目標（秋）	学術論文を論理的に読み解けるようになる。批判的な見地から先行研究を検討できるようになる。
事前・事後学習の内容	課題図書、課題論文を熟読しておく。

WASEDA University

シラバス詳細照会

シラバス詳細照会

市川真人先生



専門分野：主として日本の20世紀以降の文学と、
その環境としての紙メディアから電子媒体まで

(2026年度春・秋学期　現代文芸演習)　※2027年度は特別研究期間のため休講

授業概要	実践的な批評の執筆をめぐるプラクティスを行なう。テキストと批評の関係はもとより、批評の／としてのメディアや、その射程についてなど、複合的な要素を踏まえて書くこととは何かを実践に結びつけてゆく。 ※対面ハイフレックスで行いますが、最大で7回、moodleを利用してのオンラインでの授業を行います。
到達目標	• 批評と研究の差異をふまえた、各自の目標とする進路にのっとったテキストの完成 • テキストを構造体としてとらえ、その要素であるブロックとレイヤーの構成を意識することで、より論理的な文章を書けるようになること。
事前・事後学習の内容	学期冒頭に定める発表順に応じて、発表者は発表内容を事前に提出・共有し、発表者以外の者は、発表内容に加えてとりあげられるテキスト等を読んでおくこと。
授業計画	毎回、発表者を決めて実際の（広義の）批評文を執筆し、輪読のうえ講評および討議を行なう。
成績評価	発表、執筆物、出席状況を複合して評価する。

WASEDA University

シラバス詳細照会

シラバス詳細照会

岩川ありさ先生



専門分野：現代日本文学、
フェミニズム、
クィア批評、
トラウマ研究

(2026年度秋学期　現代文芸演習)

副題	フェミニズム批評を基礎から学ぶ
授業概要	この演習では、フェミニズム批評についての基礎的な文献を読みます。フェミニズム批評、クィア批評について学び、自分自身の研究と繋ぎます。この演習で重視するのは、社会運動や歴史的な出来事の中で、フェミニズム批評（やクィア批評）は成立してきたし、今もそうであるということです。初学者が基礎を学び、これまでフェミニズムやクィア・スタディーズを学んできた人にも新しい発見があるようにします。参照できる文献などを紹介しますので、どうか、ご自身で調べたり、読んだり、そのことを誰かと話したりしてみてください。この講義をきっかけとして、新しい時代のフェミニズム批評やクィア批評の担い手が生まれることを願っています。また、修士論文につながるようなアカデミック・スキルの基礎と応用を身につけます。
到達目標	(1)論文を正確に読むことができる。 (2)他者の発表をよく聴き、意見交換を行い、互いの考えを深める。 (3)アカデミック・スキルを身につけ、修士論文を書くことができるようになる。
事前・事後学習の内容	・論文についての発表担当者は、先行研究や関連文献をよく調べた上で、議論を喚起する形で発表できるように準備してください。 ・テクストを正確に読んで、自分が気になった点については調べ、問題意識を持ちながら議論に参加できるようにしてください
授業計画	第1回　イントロダクション－講義の概要と計画 第2回　フェミニズム批評の概説 第3回　第1波フェミニズムについて、サラ・ガヴロン監督「未来を花束にして」（原題：Suffragette（サフラジェット）、2015年） 第4-6回　エレイン・ショーウォーター編『新フェミニズム批評 ： 女性・文学・理論』（青山誠子訳、岩波書店、1999年） 第7-8回　飯田祐子『彼女たちの文学―語りにくさと読まれること』（名古屋大学出版会、 2016年） 第9-10回　修士論文検討会 第11-13回　ショシャナ・フェルマン『女が読むとき女が書くとき：自伝的新フェミニズム批評』（下河辺美知子訳、勁草書房、1998年） 第14回　修士論文完成発表会

WASEDA University

シラバス詳細照会

シラバス詳細照会

小野正嗣先生



専門分野：現代フランス語圏文学、
世界文学論、
文芸創作

(2026年度秋学期　現代文芸演習)

副題	短篇小説を精読する
授業概要	＃基本的に対面授業です。 短篇小説を、毎回一作品、技術的な側面に注目して精読します。 基本的には翻訳を通じて読みますが、英語圏の作品の場合は英語で読む場合もあります。 毎回、担当者を決めて、その発表を受けて全員で議論します。 英語で読む場合、指定された部分の訳文を作ることが要求される場合があります。その場合は、訳文についても全員で議論します。
到達目標	1)短篇小説がどのように構成されているのかを客観的に分析できる。 2)理解した内容を、各自の問題意識につなげる。 3)他の受講生の見解について建設的なフィードバックを行なう。
事前・事後学習の内容	指定された課題を必ず読んできてください。 また、課題ではありませんが、日本や海外を問わず文学作品(とくに小説)を日頃から読むように心がけてください。 一般に、事前学習として予習に2時間程度、事後学習として振り返りに1時間程度必要です。
授業計画	優れた短篇小説とされている作品はたくさんあります。本演習では、12作品を選び、毎回、ひとつの作品を取り上げて、それがどのように書かれているのか、さまざまな技術的な側面(登場人物、会話、構造や表現など)に注目してていねいに分析します。 初回の授業ではイントロダクションとして授業の目的について説明します。 授業担当者が用意したリストのなかから全員で12作品を選び、担当者を決めます。 2回目以降は、毎回、担当者による発表を受けて、全員でディスカッションを行ないます。 ただし、受講者の人数や習熟度に応じて、また公衆衛生上の要因によって、授業のスケジュールや内容が変更されることがあります。

WASEDA University

シラバス詳細照会

シラバス詳細照会

菊池有希先生



専門分野：日本の近現代詩を中心とする比較文学

(2026年度春学期　現代文芸演習)

副題　授	ティモシー・モートン『自然なきエコロジー』を読む
業概要	ティモシー・モートン(Timothy Morton, 1968-)のEcology without Nature (2007) は、自然という概念を抜きにエコロジカルな思考を展開することの可能性を追求したラディカルな環境批評の書である。ここでモートンが新しい環境哲学・環境詩学の構築に当たって「自然」に替えて有効なものとして提唱しているのが、「周囲のもの、とりまくもの、世界の感覚」を意味する「アンビエンス」という概念である。 本演習では、モートンのEcology without Nature の邦訳(篠原雅武(訳)『自然なきエコロジー――来たるべき環境哲学に向けて』以文社、2018)を履修者全員で輪読し、モートンの「アンビエンス詩学」の考え方を理解することを目指す。輪読の方法としては、履修者各々にテキストの担当箇所を割り当て、その要約を作成してきてもらい、それを全体で共有して理解を確かなものにしてゆく。テキスト読了後は、履修者各自が自身の興味・関心に応じて選んだ文芸テクストについて、モートンの「アンビエンス詩学」の考え方を援用して分析・考察したことを発表してもらうというかたちで進めてゆく。
到達目標	• ティモシー・モートンの「アンビエンス詩学」の考え方について一定の理解を得る。 • モートンの「アンビエンス詩学」の考え方を援用して文芸テクストの分析ができるようになる。

(2026年度秋学期　現代文芸演習)

副題　授	吉本隆明の詩を読む
業概要	一昨年は吉本隆明(1924―2012)の生誕百年に当たる年であったが、それを記念して岩波文庫から『吉本隆明詩集』が刊行された。吉本隆明は文学論・作家論から政治思想・経済思想論、時事評論から宗教論・文明論まで、実に幅広く著述・発言をおこなった戦後日本を代表する知識人の一人である。彼は戦後直ぐの時期に詩集『固有時との対話』(1952)、『転位のための十編』(1953)を刊行して以降、1960年代、70年代、80年代にも詩集を刊行し、詩人としても継続的に活動した。 今回刊行された岩波文庫版の蜂飼耳による「解説」にある通り、「思想家として論じられることが多い吉本隆明(一九二四年―二〇一二年)の詩の仕事は、これから改めて読み直される必要がある」。そうした観点から、本演習では、蜂飼耳(編)『吉本隆明詩集』(岩波文庫)をテキストとして、本書に収載された作品を中心に精読してゆきたい。演習の進め方としては、前半の回で吉本の詩について論じた幾つかの先行論を読み、主要な論点を確認したうえで、後半の回では履修者が各々の興味・関心をもとに選んだ作品について発表をするというかたちを考えている。
到達目標	• 吉本隆明の詩的世界について一定の理解を得る。 • 吉本隆明の詩を読むことを通じて、そこから見えてくるさまざまなコンテクスト・問題系について一定の理解を得る。

WASEDA University

シラバス詳細照会

シラバス詳細照会

草野慶子先生



専門分野：20世紀ロシア文学、比較文学

(2026年度春学期　現代文芸演習)

副題	動物／動物性と文芸研究1
授業概要	動物／動物性という観点から、どのような文芸研究の実践が可能か、またそうした実践が人文学研究になにをもたらすかを考えます。 動物と人間の境界はなにか。エクリチュールの動物性とはなにか。種差と性差の問題はどう交差するか。考えていきます。 具体的には、川端康成『禽獣』、大江健三郎『奇妙な仕事』、津島佑子の諸短編、松浦理英子『犬身』、ミハイル・ブルガーコフ『犬の心臓』、ピラール・キンタナ『雌犬』、グアダルーペ・ネッテルの諸短編、左川ちかの詩作品などの講読を予定しています。時間が許す限りで、それらに関する先行研究もあわせて読んでいくことになるはずです。
到達目標	上記「授業概要」に記した内容について一定の理解と知見を持つこと。

(2026年度秋学期　現代文芸演習)

副題	動物／動物性と文芸研究2
授業概要	春学期の「動物／動物性と文芸研究　1」に引き続き、動物／動物性という観点から、どのような文芸研究の実践が可能か、またそうした実践が人文学研究になにをもたらすかを考えます。 動物と人間の境界はなにか。エクリチュールの動物性とはなにか。種差と性差の問題はどう交差するか。考えていきます。 具体的には、津島佑子『笑いオオカミ』、多和田葉子『犬婿入り』『雪の練習生』、小川洋子『ことり』と諸短編、ハン・ガン『別れを告げない』、パク・ソルメの諸短編、草野理恵子の詩作品などの講読を予定しています。時間が許す限りで、それらに関する先行研究もあわせて読んでいくことになるはずです。
到達目標	上記「授業概要」に記した内容について一定の理解と知見を持つこと。

WASEDA University

シラバス詳細照会

シラバス詳細照会

小松史生子先生



専門分野：ポピュラー文芸論

(2026年度春・秋学期　現代文芸演習)

副題	ポピュラー文芸の国際的研究
授業概要	本演習は、ポピュラー文芸を国際的視野および学際的視野をもって横断的に研究することを目的としています。領域をまたいで共通するモチーフやテーマに基づいて、受講生各自の研究対象に紐づくポピュラー文芸作品を選び、テクスト分析を行います。 ポピュラー文芸をジャンルとして捉えれば、ホラー、ミステリ、SF、冒険物、時代小説、伝奇小説、ファンタジーといった分野が対象となるでしょう。一方、ベストセラーとなった作品として捉えれば、純文学も範疇に入って来ます。何をもってポピュラー文芸と名指すのかについての考察も、本演習の重要な課題です。 2027年度は、近年いっそうジャンルの幅を広げているミステリとホラー、そしてその両ジャンルを橋渡しする幻想ファンタジーを取り扱います。春学期は女性探偵が活躍する国内外の現代ミステリ、秋学期は世界的なホラー・ブームの傾向を具体的な作品から抽出していきます。
到達目標	①文学作品が言説コードによって成立していることを深く理解し、その言説コードの形成には、その当時の社会構造・認識概念が関わっていることを具体的に説明できるようになる。 ②同時代の社会現象を人々がどのように咀嚼し、物語構造に投影・受容しているかを分析し、各方面の言説場におけるリテラシーを養うことができるようになる。
事前・事後学習の内容	• 自分の担当作品のみならず、他の受講者の発表作品も事前に読み込んでおく必要がある。 • 精読と同時に、速読の技術も習得する。 • 古今東西の文学作品や文献、様々な学問領域についての知識が必要になるので、読書の時間を確保する必要がある。

WASEDA University

シラバス詳細照会

シラバス詳細照会

橋本一径先生



専門分野：イメージ文化史

(2026年度春・秋学期　現代文芸演習)

副題	イメージ文化史 【「ゴミ」のイメージの思想史的研究1・2】
授業概要	海洋に蓄積され続けるプラスチック、あるいは核廃棄物の処理など、「ゴミ」をめぐる諸問題は地球の存続を脅かしつつある。だがそもそも「ゴミ」とは何なのか？「廃棄」が所有権の放棄を意味するとすれば、「ゴミ」とはひとまず、誰にも所有されていない「モノ」であると定義できるだろう。ここで明らかになるのが、「ゴミ」と「身体」の類似性である。「身体」もまた、誰にも所有されない「モノ」だからである（さもなければ、たとえば臓器の売買を禁止することができない）。実際のところ身体は日々ゴミを生産し続けるだけでなく、死後は自らも「ゴミ」と化す。そして生と死の厳密な区別が困難であるように、「ゴミ」と「身体」の厳密な線引きも難しい。本演習は、「身体」を手掛かりとすることで、近代における私たちとゴミとの関係の変化を跡付ける。
到達目標	「ごみ」の問題が持つ思想史的な広がりを理解し、自らの研究の発展に結びつける。日本語や外国語の文献の探索と読解の技術を身につける。
事前・事後学習の内容	指定された文献にあらかじめ目を通しておく。授業内容と関連する文献を見つけて、授業中に読む文献の候補として提案する。
授業計画	以下のテーマごとに、それぞれ関連する文献の読解や教員による問題提起、履修者による発表などを、数回に分けて行う。取り上げるテーマの内容や順番は変更することがある。 ・欧米における「ゴミ学（rudologie）」の展開 ・衣服と身体：古着からファストファッションまで ・フランスにおける「ゴミ箱（poubelle）」の発明 ・プラスチックの発明と変容するリサイクル ・捨てられないモノ：写真・衣服・人形

WASEDA University

シラバス詳細照会

シラバス詳細照会

堀江敏幸先生



専門分野：創作（小説・批評・エッセイ）

(2026年度春学期　現代文芸演習)

副題	アルベール・カミュ『転落・追放と王国』を読む
授業概要	アルジェリア生まれのフランス語作家、アルベール・カミュの短篇集『転落・追放と王国』（1957年）を邦訳で精読する。
到達目標	晩年の作品を読み解くことで、コロナ禍で最も読まれた文芸作品のひとつであろう『ペスト』へ、さらに『異邦人』へと遡るようにしてこの作家を理解するための足がかりとしたい。

(2026年度秋学期　現代文芸演習)

副題	アルベール・カミュ『ペスト』を読む
授業概要	アルジェリア生まれのフランス語作家、アルベール・カミュの長編『ペスト』を、邦訳で精読する。
到達目標	人智の及ばぬ災厄を言葉はどのように処するか、もしくは災厄の前でどのように処されていくのか。そのありようを、1940年代、アルジェリアのオランで流行したペストを題材にしたカミュの小説のなかに探りつつ、初期作品へと遡行的に読み進めることによって、作家の成り立ちについて考える。

WASEDA University

シラバス詳細照会

シラバス詳細照会

松永美穂先生



専門分野：現代ドイツ文学・翻訳論

(2026年度春学期　現代文芸演習)

副題	複数言語による執筆とエクソフォニー
授業概要	この授業では、世界のなかで複数言語による執筆を行っている作家に注目し、彼らの作品に触れる。まずは多和田葉子について、近年出されているさまざまな多和田葉子論を作品と合わせて読んでいく。他にも李琴峰やリービ英雄、温又柔、グレゴリー・ケズナジャットなどを参照する。
到達目標	複数言語による執筆について、どのような事例があるかを知り、それぞれの文学的特徴を考察する。
事前・事後学習の内容	発表の準備はもちろん、共通テクストを読む必要もあるので、ある程度の予習が求められる。

(参考：2025年度秋学期　現代文芸演習)

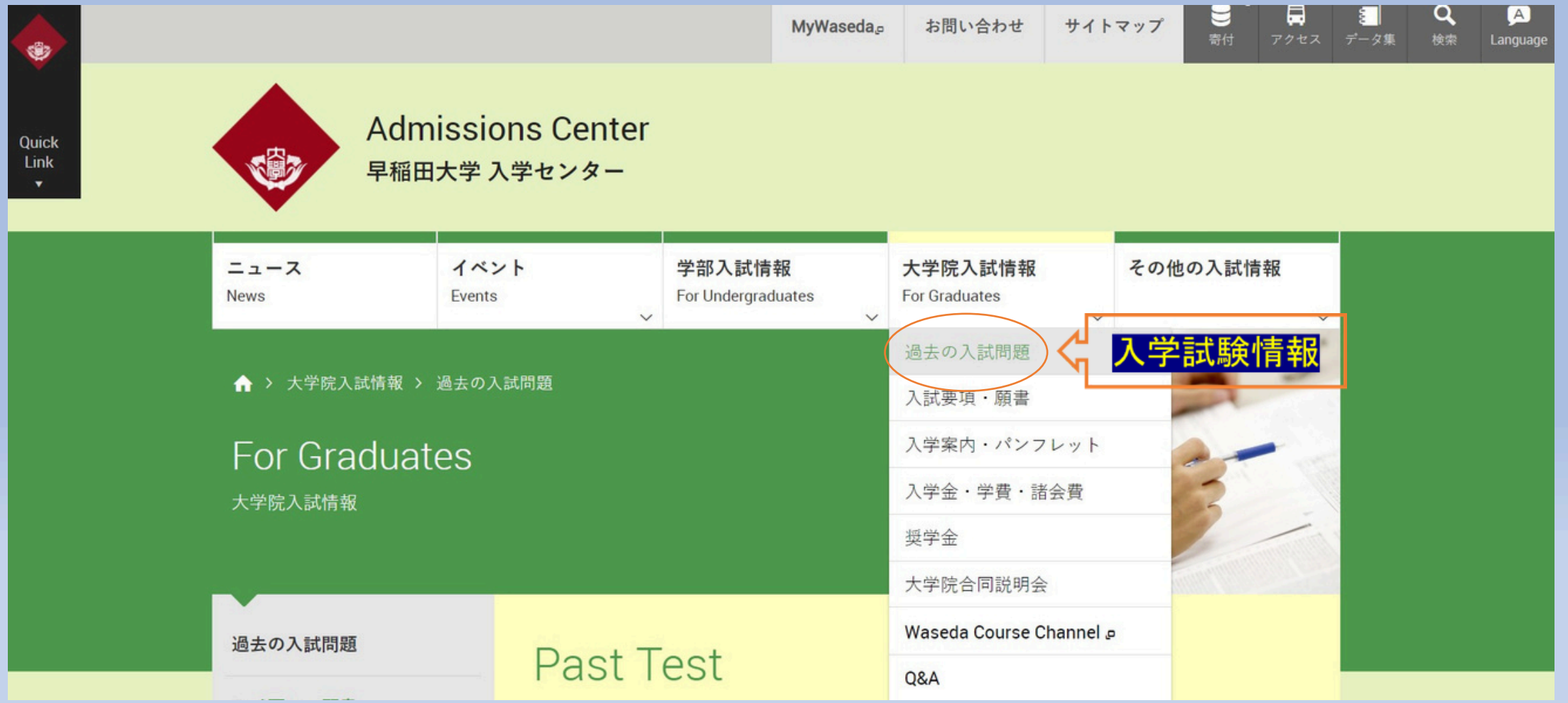
副題	「詩」と「詩論」多和田葉子を中心に
授業概要	「詩」というジャンルでの表現をめぐって、現代ではさまざまな実験的創作が行われている。この授業では多和田葉子の初期から現在に至る詩を読みつつ、シュールレアリズムとの関係や、ドイツ語を使った言葉遊び、ツェランやエルンスト・ヤンドルなどの影響を見ていくと同時に、言葉はいつ「詩」になるのかという大きな問題についても考える。
到達目標	「詩」を意識しつつさまざまなテクストを読み、「詩」を成り立たせるものについて考える。
事前・事後学習の内容	関連記事や参考図書、担当する作家の作品の読み込み、さまざまな下調べなど。

過去の入試問題

早稲田大学入学センターの以下のサイトで過去3年分の問題の閲覧が可能です。

https://www.waseda.jp/inst/admission/graduate/past_test/

（大学院入試情報→過去の入試問題→該当年度の文学研究科　修士課程）



よくあるご質問（1/2)



◇冬期入試はおこなわれないのですか。

[答] 9月入試のみの予定です。

◇これまで横断的研究に馴染みがないのですが、外部から入学した場合、大学院の授業に適応できるでしょうか。

[答] 指導する側として出身校による違いは感じられません。副指導教員制度もあるため、馴染みやすいのではないでしょうか。外部から入学した学生数は少なくありません。学生さん同士が情報交換しながら、問題なく授業についていけると思います。また、留学生や外部からの進学者のみなさんが豊かな学術環境を作ってくださっていると感じています。

◇現代文芸コースに進学するにあたり、参考となる教科書をいくつか教えてほしいのですが。

[答] 教科書として特に共通したものはありませんが、強いて言えば、理論書を読むより、文学史を読みつつ、古典とされる文学作品に広く親しんでほしいと思います。また修士の授業についてお知りになりたい場合は、HPの教員紹介の頁に各教員が担当する科目のシラバスが公開されていますので、そちらを参考になさってください。

◇過去に現代文芸コースに提出された修士論文の研究テーマを教えてほしいのですが。

[答] 毎年度刊行される文学研究科紀要に、前年度の修士論文の題目一覧と優秀修士論文概要が掲載されておりますので、ご参照ください。→https://www.waseda.jp/flas/glas/research/bulletin/

よくあるご質問（2/2)

◇入学後、修士論文の研究テーマが変わっても大丈夫ですか。

[答] 問題はないです。むしろ、入学後に学び、新たな分野に触れることで、軸はぶれなくても、研究内容が変化する事のほうが多いと思います。

◇院生の進路についてはどのような選択肢がありますか。
[答] 卒業生の進路には、高校の教員（国語）、地方公務員、国際交流基金、出版社、ゲーム会社、翻訳エージェント、大学職員、他大学院（博士後期課程）、NHKなどがあります。

◇大学院を事前に訪問することはできないですか。
[答] 入試前に先生に直接会いに来ることは、入試の公正性という観点から避けてほしいのですが、雰囲気を感じるために助手・助教が在室する現代文芸コース室を訪問することは可能です。

場所　：　早稲田大学 戸山キャンパス33号館 7階 704号室
開室時間：　月～金　　12:00～18:00
(※助手・助教は16:00まで在室、その後は論系・コース室LAが対応。)
E-Mail ：　bungeijournalism3238@gmail.com



現代文芸コースでお会いしましょう！

